

平成26年度実施（25年度採択）中央区協働提案事業評価結果報告

この報告は、中央区協働事業提案及び協働事業実施要綱第13条第2項に基づき、中央区協働推進会議から中央区長に報告するものである。

1 評価の対象とした事業

- (1) 妊娠初期からの継続的な、「孤育て予防」のための情報発信事業
協働団体：特定非営利活動法人 きずなメール・プロジェクト
区担当部局：福祉保健部健康推進課

- (2) 檜原村紹介事業 ～檜原村で知る、見る、体験ツアー～
協働団体：中央区森の応援団
区担当部局：環境土木部環境推進課

2 評価結果

別紙「中央区協働提案事業評価結果報告書」のとおり

3 評価経過

平成27年2月 3日 中央区協働推進会議による実施報告会
平成27年2月12日 中央区協働推進会議による事業評価

4 評価方法

協働団体及び区担当部局から提出された実施報告書及び実施報告会を踏まえ、下記評価基準に基づき、全委員協議のうえ共通認識のもと評価した。

(評価基準)

- (1) 事業の成果に関する評価
事業目的の達成度、事業実施における効率性・効果、受益者の満足度
- (2) 協働の取り組みに関する評価
団体及び区の役割分担、相互理解・パートナーシップ
- (3) 総合評価
事業継続の必要性

中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	妊娠初期からの継続的な、「孤育て予防」のための情報発信事業		
実施団体	特定非営利活動法人 きずなメール・プロジェクト		
担当課	福祉保健部健康推進課		
目的	<p>希望する妊婦、母親を対象に妊娠初期から出産後子どもが3歳になるまでの間、胎児の成長の様子や、出産・育児に関するアドバイス、保健所・保健センターが実施する母子事業実施に関する情報等を随時メール配信を行う。孤立しがちと言われる妊婦、母親の妊娠、出産・育児への不安、産後うつなどの予防・解消に寄与する。</p> <p>また、配偶者の妊娠期には、父親向けのメールを配信することで、出生前から父親の育児参加を促していくことを目的とする。</p>		
事業の概要	多様な子育て支援施策のひとつとして、出産や子育てに関する不安の解消を図るとともに、産前産後の経過に応じたタイムリーな子育て支援情報を携帯端末により配信する。		
実績	<small>利用者数(用途)</small> 産前(妊婦向け):439名 産前(男性向け):64名 産後(育児):739名	事業費	1,778,565円
評価	A:高く評価できる B:評価できる C:どちらかという評価できる D:あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価		推進会議評価	
事業の目的は達成できたか		B	
① 利用者の登録数が徐々に増加していることから、メールという媒体の気軽さが効果をあげていると思われる。 ② 多くの利用者にとって有用な情報が届くツールとなっている点は利用者へのアンケート結果からも窺え、本事業が子育て中の親と社会との接点をつくる役割を果たしていると言える。 ③ メール文面の作成に保健師が参加するなど、専門性の高い情報も提供されており、事業としての充足度も評価できる。 ④ 各種報道メディアで取り上げられたこともあり、今後の周知、展開についてもより一層の期待をしたい。			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか		A	
① 区と団体とで調整した情報の提供は、子育てで悩む人たちを直接的に専門機関へとつなげる効果的・効率的な事業であると考えられる。 ② 区と協働した結果、保健所のきめ細かい情報が効果的に発信されていることも、利用者に安心感を与え、利用実績の増に寄与していると認められる。			
受益者の満足度はどうであったか		B	
<p>アンケート結果からは利用者の高い評価が窺える。産前、育児とも「とてもよかった」「よかった」の回答がともに90%を超えており、高い満足度を得ている。しかしながら、タイムリーな情報であるか否かは妊婦の健康状態や乳幼児の成長状況、家庭状況などにより異なってくるので、スイートスポットの広い有用情報の選定が重要であり、今後は「読み捨て」にならないための双方向型のコミュニケーションの可能性を探求してほしい。</p>			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価	
団体と区との役割分担はうまくできたか	A	
<p>両者対面での打ち合わせやメール・電話などを駆使した緊密なやりとりを行っていたことは評価できる。当初の「官民の違い」も徐々に克服され、多忙な保健師にとっても協働しやすい役割分担の明確化がされたことから、コミュニケーションや情報共有に関しても良好な関係を構築できた。事業の性格上、システムとコンテンツについては、ほぼ団体側のコンセプトで推移しており、団体のノウハウが上手く活用されている点も評価できる。</p>		
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	A	
<p>相互理解やパートナーシップは深まっており、効果的な協働になったことが窺えるが、区側にとってはこの取り組みをいかに次につなげていくかが重要と考える。出生数が大きく増加している本区では行政が子育て支援について積極的であり、そういう背景の中で官と民が知恵を出し合うことで、相互理解・パートナーシップの構築につながった。今回の協働についての特色は、父親へのアドバイス、保健師からメッセージを付随させる点にあるが、これによって団体側においてもノウハウの蓄積がなされたと考えられる。こうした取り組みが今後の協働のあり方をより充実したものにするうえで重要である。</p>		
総合評価コメント		
継続すべきである	一部修正を要するが継続すべきである	再検討を要する
<p>① 妊婦とその夫の登録者数を増加させることが課題(目標)である。登録者の総数のみならず、未登録者への今後の働きかけは重要である。高い満足度を上げているこのサービスを短期で打ち切るという事は現実的ではないうえ、区民との信頼関係上も考えにくい。</p> <p>② 事業の成果は質的には有益であったことが明らかであり、課題はこれを量的にどこまで拡大できるかにかかっている。今後も増加が見込まれる子育て世帯に対し常態的なサービス提供が可能となるような広報的手法の検討が課題であると同時に、将来的にはもう一つの社会的課題である介護世帯へのサービス展開の可能性を検討していく余地があろう。</p> <p>③ そのためにも本事業は次年度も継続することが望ましい。また、情報内容の構築時に保健所職員だけでなく、将来的に保育園、児童館、幼稚園、学校など多様な主体が関わることによって、成長にあわせた様々な情報を提供できることが期待される。</p>		

中央区協働提案事業評価結果報告書

事業名	檜原村紹介事業 ～檜原村で知る、見る、体験ツアー～		
実施団体	中央区森の応援団		
担当課	環境土木部環境推進課		
目的	① 中央区の地球温暖化対策事業としての「中央区の森環境ふれあい村構想」に挙げられている「地域の自然・文化等の体験と交流促進」を目的とする。 ② 中央区の森を実際に訪れることで森への理解を深める。 ③ ツアーを通じ、区民間や檜原村民とのふれあいを図る。 ④ 町会など区内の組織単位で中央区の森への訪問を誘うきっかけづくりを行う。		
事業の概要	檜原村の自然や文化、村民とのふれあいを通して、環境を守ることの大切さを学ぶ機会を提供するとともに、より多くの人々が中央区の森を訪れる契機となる体験ツアーを実施する。		
実績	平成26年11月9日(日)ツアー実施 ツアー参加者: 30名	事業費	880,200円
評価	A: 高く評価できる B: 評価できる C: どちらかという評価できる D: あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価		推進会議評価	
事業の目的は達成できたか		B	
① アンケート結果を通じて参加者(団体)のニーズが見えたことと、参加した感想が概ね「良かった」という回答であったことなどから、一定の成果はあったものと思われる。 ② 体験プログラムの提供についても、予想以上の成果を挙げていると判断できるものの、今年度の企画ではさまざまなニーズに対応した体験プログラム開発という点までには至らずに課題を残した。世代別対象別の体験プログラムや天候に応じた臨機応変のプラン対応など、檜原村の資源を十分に生かしたプログラム開発を課題としたい。			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか		B	
① 本事業において実施団体が区の担当部署に依存することなく、計画・実行していたことは一定の評価ができる。しかしながら、互いに協働することでより効果的・効率的な事業実施にしていくには改善の余地がある。 ② 一方で檜原村との協働効果は高いものがあり、団体が地域に根ざした団体であったことから、多くの関係者への周知が独自のネットワークで展開できた。しかし、団体単独でも本事業の実施が可能であるような印象を受けるので、協働事業として区との協力関係をさらにアピールする必要がある。			
受益者の満足度はどうであったか		B	
① 参加者のアンケートを見ると、体験ツアーに関する満足度は高く出ている。 ② さらに、本事業の目的であった中央区の森への理解を深めること、檜原村の村民とのふれあいを図ることについてもプログラムの充実により参加者の満足した様子がわかった。 ③ 課題としては、中央区から檜原村までの長い移動距離をいかに充実した時間として活用できるかにある。参加者に檜原村の魅力を移動中に喚起できるような車中プログラムの開発も重要である。			

2 協働の取り組みに関する評価	推進会議評価	
団体と区との役割分担はうまくできたか	B	
<p>区の役割には、中央区の森に関する情報提供、自治体間調整、広報などがあるが、具体的にどのような役割を果たしたのかを協働事業との関連で明確にしていくことが重要である。また、通常業務の枠内でしていることと、本事業のために特に区側で努力したことがわかるように提示していく必要がある。</p> <p>今後、継続性のあるツアーに発展させるためには、実施状況よりも、このツアーを振り返り、協働して検討することこそが本事業の中で重要な箇所である。そこではじめて単独実施で生れない団体と区との役割分担を踏まえた効率、効果的な事業構築が可能になるのではないかと考える。</p>		
協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)	B	
<p>① 区が団体の主体性を引き出している点では、パートナーシップは良好であったといえる。</p> <p>② 今後は区の提案やアドバイスがプログラム開発に反映していけるよう、相互の内容面での協働関係を期待したい。</p> <p>③ これからも区が団体を継続的に支援し、中央区の森を守り、活用するためのパートナーとして育てていけるような態勢づくりが求められる。</p> <p>④ 将来的には団体が中央区の森ツアーの企画について諸団体にアドバイスをし、コーディネートするという目標を実現するために、団体の自立へのサポートも重要である。</p>		
総合評価コメント		
継続すべきである	一部修正を要するが継続すべきである	再検討を要する
<p>① 参加者の年齢層や社会的背景、ニーズを踏まえた体験ツアーを展開していくことで、地域の活性化を図る可能性があるという意味では、期待が大きい事業であると言える。</p> <p>② また、このような事業は単発で終わるものでなく、継続され、積み重ねられることも重要である。ツアー参加の機会が継続されることによって、参加者の意識・行動の変化が徐々に得られるものと言える。本事業が檜原村との良好な関係によって継続できることは、環境保全の点からも自治体間交流の振興の点からも望ましい。ただ、人口が少ない檜原村にツアーが頻回に訪れることにより、村の人的資源が疲弊するようなことがあってはならないので、今後はコンテンツレベルでの検討にとどまらず、システムレベルでの検討(シーズンごとのツアーの上限数、連絡拠点の明確化、調整主体の構築など)をも協働で行うことが望まれる。</p>		